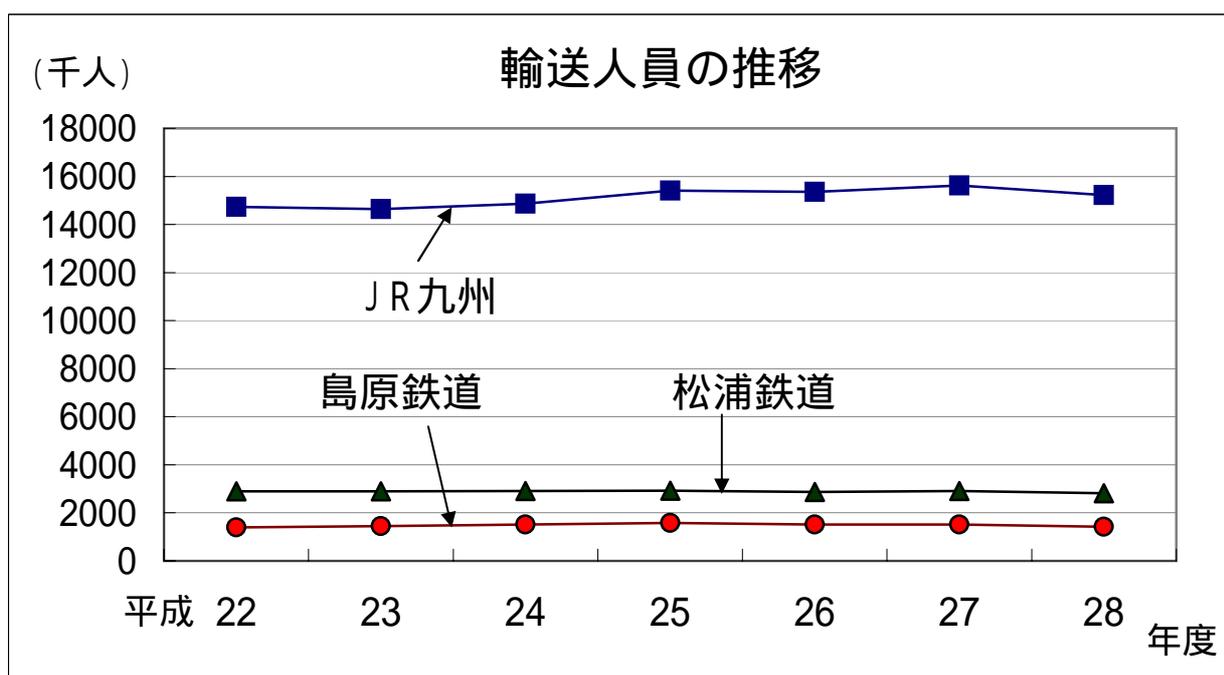


鉄道利用の概況



県内鉄道の緒元

(平成28年4月現在)

鉄道会社	営業キロ (km)	駅数	複線化キロ (km)	複線化率 (%)	電化キロ (km)	電化率 (%)
JR九州	127.2	37	8.1	6.4	60.8	47.8
島原鉄道	43.2	24	-	-	-	-
松浦鉄道	93.8	57	-	-	-	-

松浦鉄道(MR)は、全線に係るもの

利用者数の推移

(単位:千人)

平成(年度)	22	23	24	25	26	27	28
JR九州	14,729	14,638	14,859	15,407	15,353	15,621	15,230
島原鉄道	1,397	1,445	1,514	1,583	1,509	1,521	1,425
松浦鉄道	2,898	2,902	2,912	2,928	2,864	2,905	2,822

JR九州は、県内各駅の乗車人員の合計

島原鉄道と松浦鉄道は、全線各駅の輸送人員の合計

松浦鉄道は、長崎・佐賀両県の利用者数

本県に路線を有するＪＲ九州、島原鉄道、松浦鉄道は基幹的な輸送機関として、地域の均衡ある発展と利便性の向上のため、輸送力の増強と輸送サービス改善に努めている。

ＪＲ九州は、全事業において安全を基本に、より一層のサービス向上に努め、鉄道利用促進に取り組んでいる。Ｄ＆Ｓ列車「或る列車」の運行や、地域のイベントと連携したＪＲ九州ウォーキングの実施など、地域に密着した顧客サービスの向上を図っている。

県内各駅における平成２８年度の総乗車人員は１５，２３０千人で、対前年度比９７．５％と前年を若干下回っている。

島原鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学はもとより、島原半島の観光振興にも重要な役割を果たしている。少子・高齢化などによる沿線人口の減少が進み、輸送人員が伸び悩む中、「幸せの黄色い列車王国」をはじめとする地域と連携した各種イベントの実施等、鉄道利用促進に努めている。

輸送人員については、熊本地震の影響による観光客の減少もあり、平成２８年度は１，４２５千人で対前年度比９３．７％と前年を下回った。

松浦鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学、買い物等の日常生活に重要な役割を果たしている。

利用促進の取組としてビール列車等の企画列車の運行にも力をいれているほか、収支改善を図るため、平成２８年４月に約１０％の運賃改定を行っている。

輸送人員は、平成２２年度から概ね横ばいで推移しており、平成２８年度は２，８２２千人で、対前年９７．１％となっている。これは熊本地震や台風など自然災害が重なった影響を少なからず受けている。

島原鉄道、松浦鉄道ともに沿線人口の減少や少子・高齢化の進行等により厳しい経営環境が続いており、安全運行確保のための施設の適切な維持・管理をあわせて、より一層の利用促進などの取組が必要である。

(県新幹線・総合交通対策課)